季節の花だより

● 早春を飾るマンサクの花

有名な植物学者・本田正次氏は著書の中で「切り紙細工でも見るように手足を四方に伸ばしたような格好は、まさに黄金の衣を着た小人の踊りでも見ているようでとても楽しく、黄金花咲く豊年満作の踊りを踊っているように見える。」と、こんな表現をしています。その名は文字通り「満作」。豊穣を意味し、この木が枝いっぱいに花を咲かせることに由来するとか。また、早春にまっ先に咲く「まんずさく＝マンサク」から来たという説もあるようです。

● いち早く春を告げる花　水仙

寒風に揺れながら眼下に日本海を望む丘陵で甘い香りを漂わせる2万本のニホンスイセン。米子市淀江町福岡、向山古墳群散策道のスイセンは、隣接する白鳳の里が6年前に植栽したもので、その栽培面積は約四百平方メートル。12月初めから咲き始め、見頃は1月下旬になるとのこと。スイセンの花が終わるころには梅の花がほころび始め、一歩一歩と春が近づきます。

季節の味だより

● 一夜干しのエテカレイ

エテカレイも今が旬!!近海の沖合底曳網で漁獲される、当地では大変ポピュラーな魚で、一夜干し、煮付け、唐揚げなど、山陰地方の食卓には欠かせない味です。特に寒風にさらされた一夜干しの焼きたては、厚い身が“ほこほこ”としていて、しかもたまらなくジューシー!この魚は、皮膚をみずみずしく健康に保つコラーゲンを多く含んでいるとか。お土産や贈り物にも大変喜ばれています。

● 南部町「緑水園」の名物料理「ぼたん鍋」

その名はイノシシの肉を薄切りにし、牡丹の花に似せて皿に盛りつけることに因み、明治時代、兵庫県の篠山地方に帝国陸軍の部隊が駐屯し、兵隊達がイノシシを味噌仕立ての鍋物にしたのがその原型とされ、除隊した兵隊達が全国に広めたと言われます。猪肉の脂身は臭みもなく、意外にあっさりとして、濃厚な豚肉といった感じ。地元の野菜もたっぷりに、ぼたん鍋で冬の夕餉を楽しみましょう!

●ぼたん鍋／3,675円より
●お問い合せ・ご予約は／緑水園TEL/0859-66-5111

プレゼント 8p

とっとり花回廊 TEL.0859-48-3030

予告 ★クリスマスローズ展示会・講演会

積雪を割って咲いてくることから「雪起こし」との和名を持つクリスマスローズは、花の少ない冬に咲くこともあり近年人気が高まっています。このクリスマスローズの展示会を、山陰地方で初めてとっとり花回廊で開催します。まだまだ貴重な八重咲きを含め約50株の個性あふれるクリスマスローズをご覧いただけます。また、展示期間中に、原種シクラメンとクリスマスローズの栽培研究で有名な横山園芸・横山直樹先生を迎え、クリスマスローズの魅力と育て方についての講演会を行います。

●クリスマスローズ展示会
期間／**2月11日**（土）～**22日**（水）
（火曜日は休園日です。）（ゆりの館（東館）ギャラリー）
●講演会「クリスマスローズの魅力と育て方（仮題）」
日時／**2月18日**（土）13:30～（フラワードーム研修室）

★らんまつり

2月25日(土)～**3月6日**（月）
（火曜日は休園日です。）

あたたかいフラワードーム内に、約2000株の洋ランの仲間達が勢ぞろいし、らんまつりを開催します。例年好評をいただいている、コチョウランとシンビジュームで飾り付けられた「らんのトンネル」が登場するほか、米子洋らんの会の皆さんによる展示会には約200点の逸品が大集合。また、地元産のデンドロビューム、シンビジュームを格安で販売するなど、らんの魅力をたっぷり堪能できるイベントです。

展覧会 Pick up!

■「スイス・スピリッツ —山に魅せられた画家たち ALPINE AIR — SWISS ARTISTS INSPIRED BY MOUNTAINS」

1月2日（月）～2月24日（金）　島根県立美術館

ジョヴァンニ・セガンティーニ《アルプスの真昼》1891年 油彩・キャンヴァス (c) Segantini Museum, St.Moritz

多くの人々は、スイスと言えば「山」を思い浮かべるのではないでしょうか？この展覧会では、スイスを示すのに最も典型的なモティーフである「山＝アルプス」を取り上げ、18世紀末から今日までの代表的なスイス美術を展観します。本展は、日本においてスイスの現代文化を紹介する「0406スイス・コンテンポラリー・アート・イン・ジャパン」の一環として、スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団とアールガウ州の協力により開催されます。雄大な山の風景をどうぞお楽しみください。

■ 大山今昔物語

2月1日（水）～4月15日（土）　大山自然歴史館

昭和初期のなつかしい大山を写真で紹介します。国立公園指定に湧く大山寺博労座周辺の様子や銅鳥居の二度の移転など、貴重な写真の数々を展示します。現在の大山と比較してみてください。

平成17年度米子市美術館特別展

■「棟方志功展 民藝の巨匠たちとの出会い」

2月5日（日）～3月19日（日）　米子市美術館

倭画・筆硯側器図

道祖土頌　花降の柵

「わだはゴッホになる」の言葉で有名な、近代日本の生んだ、たぐい稀な芸術家・棟方志功（むなかたしこう 明治36～昭和50）。昭和11年、日本民藝館設立の年に、棟方は柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司ら民藝運動の指導者たちの知遇を得ました。棟方はその後民藝の思想を根底に、柳らから学んだ芸術論、宗教、美学の思想を次々と作品として開花させ、柳が亡くなるまで、完成作全てを真っ先に、師と仰ぐ柳の元である民藝館に届けました。その初摺り作品の中から、柳の鑑識眼によって厳選された棟方作品は、他に追従を許さぬ最高の完成度で、観るものに感動を与えます。民藝の父・柳宗悦が設立した日本民藝館設立70周年を記念して開催される、作品の大きさが最長15メートルにも達する大巻絵から《釈迦十大弟子》などの代表作、初公開の油絵など約250点を展示。必見です。

チケットプレゼント 8p